

ご近所の お医者さん

465

よしの内科 吉野琢哉さん 一大阪市福島区
クリニック院長

便潜血が陽性

「便潜血が陽性でした。再検査をお願いできませんか」と言われることがあります。しかし、便潜血検査で陽性となった場合、再検査をして陰性を確認する必要はありません。それよりも、大腸内視鏡検査などによる精密検査が必要です。

健康診断
などで実施
される便潜

血検査は、便に含まれるヘモグロビンの有無を調べる方法で、大腸や直腸からの出血の有無を確認できます。多くの大腸がんでは便などが通過する際の



必ず大腸がん検査を

刺激で容易に出血することから、大腸がんのスクリーニング検査として便潜血反応が広く用いられています。ただし、進行がんでも陽性になる確率は8割程度のため、少しでも精度を上げるために2日連続して便検体を採取する

「2日法」が取られています。

便潜血検査の結果が陽性だった患者さんが精密検査を受けた場合、どの程度の確率でがんが見つかるのでしょうか？

実は、40〜60%は何も見つからなかったり、痔などの軽微な症状だったりのです。「そんなものか」と思われるかも知れませんが、1回でも陽性であれば全く自覚症状がなくても、20

〜30%の確率で前がん病変を、2〜4%の確率で大腸がんを患っている可能性があります。

近年、国内の大腸がん死亡率は男女ともに著しく増加しています。がん統計によると、部位別の死亡数は、男性では肺が最も多く、がん死亡全体の23・9%を占め、胃(13・6%)、大腸(12・3%)、肝臓(8・4%)、膵臓(7・8%)の順。女性では大腸が15・1%と

最多で、肺(14・0%)、膵臓(10・7%)、胃(10・2%)、乳房(9・1%)の順となっています(公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計17部位別がん死亡数」2016年)。

大腸がんは早期発見で治療が期待できる疾患です。早期発見、早期治療のためにも、便潜血検査が陽性だった場合は必ず精密検査を受けましょう。